

「団地の未来プロジェクト」 隈研吾氏、佐藤可士和氏監修による 洋光台北団地エリアリニューアル (集会所・屋外広場・住棟ファサードリニューアル)

独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)では、昭和45年に横浜市磯子区洋光台に誕生したUR賃貸住宅「洋光台北団地」において、継続的に団地の価値を上げる取り組みのモデルケースとして、建築家の隈研吾氏くまけんごとクリエイティブディレクターの佐藤可士和氏さとうかしわによる監修のもと、「団地の未来プロジェクト」(<http://danchinomirai.com/>)(以下、本プロジェクト)(別添参照)を進めております。

この度、洋光台北団地エリアの新たな拠点として、「団地の集会所 OPEN RING」や集会所に隣接する屋外広場・住棟ファサードの大規模リニューアル(一部建替え、一部改修)が行われましたので、お知らせ致します。

1. 「団地の集会所 OPEN RING」

これまでの集会所がサンクンガーデン(階段で囲まれた広場)やその奥に新たに誕生した芝生広場と一体となった「団地の集会所 OPEN RING」として団地・地域の方に親しみやすい場所として生まれ変わりました。集会所には、新たにコミュニティカフェ等が併設されました。併設したコミュニティカフェ「団地のカフェ」(“よっしーのお芋やさん”)には「団地のライブラリー」等が設置されています。この「団地の集会所 OPEN RING」は、建築アイデアコンペの最優秀案(当選者:NAAW 長野憲太郎氏ながのけんたろう、王翠君氏おうすいくん)をベースに、隈研吾氏(プロジェクトのディレクターアーキテクト)、佐藤可士和氏(プロジェクトディレクター)のディレクションにより具現化されました。

2. 「屋外広場・住棟ファサード」

集会所に隣接する屋外広場と住棟ファサードのトータルリニューアルを実施しました。その結果、広場の柵や段差をなくし、芝生を敷くことにより、高度成長期時代の「団地」のイメージを刷新して、誰もが使いやすいオープンで気持ちの良い屋外空間に生まれ変わりました。また、白く再塗装された住棟ファサードには、暖かな木目のデザインが施され、広場に設置されたロゴマークのパーツをかたどった木製の家具を配置する等により緑と調和するアクセントになっています。これは、佐藤可士和氏初の試みとなる団地全体のデザイン監修の一環として実施したものです。



団地の集会所 OPEN RING



屋外広場・住棟ファサード

【お問い合わせ先】

- UR都市機構 東日本賃貸住宅本部
- 神奈川エリア経営部 ストック活用計画課 (電話)045-682-1892
- 総務部 総務課 (広報担当) (電話)03-5323-2555



完成披露ムービー



団地のカフェ（団地の集会所 OPEN RING 内施設）



団地のライブラリー（団地のカフェ内に設置）

＜今後の展開＞

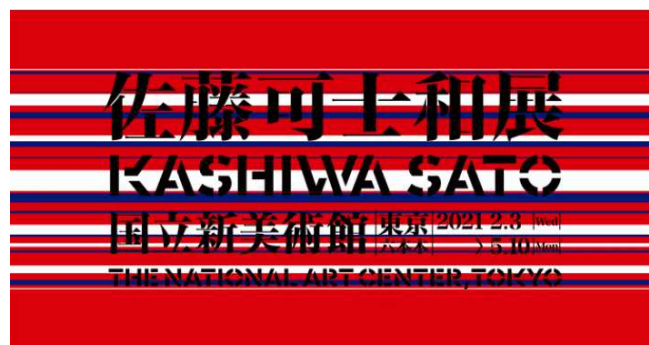
■令和3年1月下旬 新築棟の入居者募集開始

洋光台北団地1-11号棟は新築棟に建替えを実施しています。令和3年1月下旬より入居者募集を開始する予定です。この住棟には、洋光台北団地にお住まいの方がご利用いただけるコミュニティラウンジが併設される予定です。



■佐藤可士和展開催

令和3年2月3日～令和3年5月10日に国立新美術館にて本プロジェクトのプロジェクトディレクター佐藤可士和氏の展覧会「佐藤可士和展」が開催されます。本プロジェクトに関しても展示が予定されています。



平成30年に実施した洋光台中央広場改修に続き、北団地エリアのリニューアルにより、団地を核とした洋光台エリア全体の活性化をさらに進め、様々なワークショップや広場を活用したイベントなど、団地や地域のお住まいの皆様のコミュニティ拠点として「新しい住まい方」の発信を行ってまいります。

SDGs未来都市・横浜「持続可能な住宅地推進プロジェクト」※¹（磯子区洋光台周辺地区）
くま けんご さとう かしわ
隈 研吾氏、佐藤 可士和氏監修による洋光台北団地エリアリニューアル
(集会所・屋外広場・住棟ファサードリニューアル)

磯子区洋光台周辺地区については、「持続可能な住宅地推進プロジェクト」の推進地区として、SDGs未来都市の実現に向け、本市とUR都市機構（独立行政法人都市再生機構）が協働しながら、多世代交流やコミュニティ活性化等の取組を行っています。

このたび、平成30年8月の洋光台中央広場※²に続き、洋光台北団地エリアの新たな拠点として「団地の集会所 OPEN RING」がリニューアルオープンしました。このリニューアルに合わせて、集会所に隣接する屋外広場と住棟ファサードの改修やコミュニティカフェの機能拡充が行われました。

本日、別紙のとおり、UR都市機構から発表がありましたので、お知らせします。なお、この取組は、UR都市機構により「団地の未来プロジェクト」として推進されているものです。



「団地の集会所 OPEN RING」外観



屋外広場・住棟ファサード改修

【事業経過】

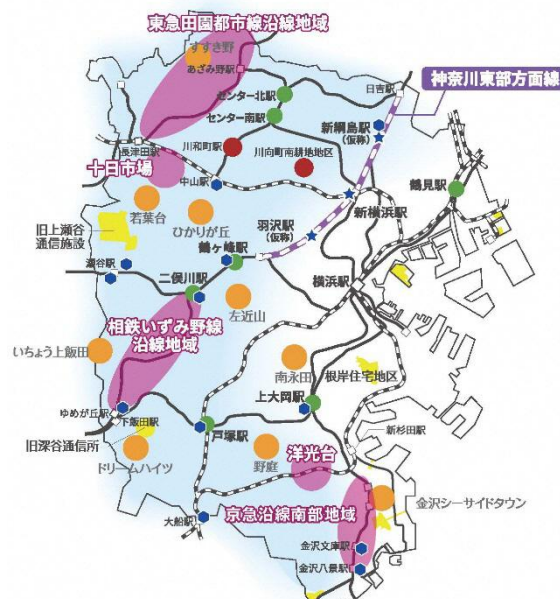
年 月	内 容
平成24年度～	有識者・洋光台まちづくり協議会・神奈川県・UR都市機構・横浜市が参画した「洋光台エリア会議」を開催
平成26年度	洋光台まちづくりビジョン（「ルネッサンス in 洋光台」）を策定し、団地を核としたまち全体の魅力向上や、団地ならではの新たな住まい方の提案を目指す。
平成27年9月～ 平成28年6月	「団地の未来プロジェクト 建築アイデアコンペティション-集会所」を実施
平成30年8月	洋光台中央広場をリニューアルオープン
令和2年5月	北団地集会所内に、コミュニティカフェ“よっしーのお芋やさん”オープン

※1 持続可能な住宅地推進プロジェクト(SDGs 未来都市)

「SDGs 未来都市」の実現に向け、少子高齢化、コミュニティの希薄化等、地域の課題を解決するため、持続可能な魅力あるまちづくりを推進しています。

次の推進地区において、地域住民や鉄道事業者、UR 都市機構等と連携し、高齢化対応、子育て支援、多世代交流等の取組を進めるなど、住民参加型の事業等を実施します。

推進地区	連携先
東急田園都市線沿線地域	東急㈱
相鉄いずみ野線沿線地域	相鉄ホールディングス㈱
緑区十日市場町周辺地域	【20・21 街区】 東急㈱、東急不動産㈱、 NTT 都市開発㈱
	【22 街区】 相鉄不動産㈱、 伊藤忠都市開発㈱
磯子区洋光台周辺地区	UR 都市機構



▲横浜市中期4か年計画2018-2021 戦略4 (2) より抜粋

「SDGs 未来都市・横浜」について

横浜市は2018年6月に、SDGsの達成に向けて優れた取組を提案する都市「SDGs 未来都市」と、その中で特に先駆的な取組をする「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。「環境を軸に、経済や文化・芸術による新たな価値・賑わいを創出し続ける都市の実現」をビジョンに、SDGs 未来都市の大都市モデルに挑戦しています。

磯子区洋光台周辺地区では、気候変動対策の1つとして、CO₂排出量の削減につながるライフスタイルを住民の皆様と考え、生活の中で実践していきます。

SDGs未来都市・横浜



※2 洋光台中央広場リニューアル

隈研吾氏による設計監修のもと、UR都市機構により、外壁修繕(平成26年度完成)、広場改修(平成28年度工事発注、平成30年5月完成)が行われました。

外壁修繕では、アルミ製の“木の葉パネル”により、室外機置き場をポジティブな要素に反転し、広場改修では、家形連続庇による開放的なアーケードが設置されました。また、広場に面する住棟にデッキを新設し、2階部分が住居から施設に転用されています。



洋光台中央広場

お問合せ先

【持続可能な住宅地推進プロジェクトについて】	建築局	住宅再生課担当課長	米満 東一郎	Tel 045-671-4458
【洋光台周辺地区について】	磯子区	区政推進課長	佐藤 亜希子	Tel 045-750-2330
【団地の未来プロジェクトについて】	UR都市機構	東日本賃貸住宅本部		
	神奈川エリア経営部	ストック活用計画課		Tel 045-682-1892
	総務部	総務課(広報担当)		Tel 03-5323-2555



団地の未来

The Future of Housing Complex Project
danchinomirai.com

団地の未来プロジェクト
洋光台北団地エリアリニューアル

集会所・屋外広場・住棟ファサード改修

UR都市機構では、神奈川県横浜市磯子区の「洋光台団地」をモデルケースとして、継続的に団地の価値を上げていくことで、より良い社会づくりに貢献していく「団地の未来プロジェクト」を、平成27年3月より進めております。

本プロジェクトは、建築家の隈研吾氏を、新しいライフスタイルに適した建築・空間設計を創造する「ディレクターアーキテクト」として、また、クリエイティブディレクターの佐藤可士和氏を、人が集まって住む団地だからこそできる新しい住まい方と地域のあり方を提示していく「プロジェクトディレクター」として迎え入れ、スタートしました。

これまで各界の方々との意見交換を行い、多角的な視点からアイデアを議論し、建物のリニューアルプロジェクトをはじめ、防災の新しいカタチの提案から地域の方々にも参加していただいたフィルムコミッションまで、様々な取り組みを並行して進めてまいりました。2018年には隈研吾氏デザイン監修による洋光台中央の広場リニューアルが完成し、新しく生まれた2階デッキ部分には工芸作家の方々のショップが集積するクラフトマルシェゾーンがオープンすると共に、広場では地域の皆様が主催する毎年恒例の「ハロウィンイベント」(※)に加え、2018年からは新たにハンドメイドの雑貨・アクセサリー等を手掛けるクリエイターが全国から集う「団地のマルシェ 洋光台クラフトマルシェ祭」(※)など様々なイベントが開催され、地域内外から多くの方に足を運んでいただいております。(※2020年度はコロナの影響により中止)

この度、本プロジェクトのアイコンとなる新たな拠点として、プロジェクト立ち上げ当初に実施した洋光台北団地集会所の建築アイデアコンペにおける最優秀案(当選者：NAAW長野憲太郎氏、王翠君氏)をベースに、隈研吾氏、佐藤可士和氏によるディレクションのもと実施案を策定したリニューアル工事により、「団地の集会所 OPEN RING」が完成いたしました。

あわせて、洋光台中央広場のトーン&マナーを継承して佐藤可士和氏がデザイン監修を行った、洋光台北団地集会所に隣接する、広場と住棟ファサードのリニューアル工事も完成し、洋光台地区の北エリアに新たな拠点が誕生しました。

集会所に併設した「団地のカフェ」には、団地の豊かな屋外空間の中で本に親しんでいただくための「団地のライブラリー」を設置するほか、様々なワークショップや広場を活用したイベントなどを予定しており、団地や地域にお住まいの皆様のコミュニティ拠点として「新しい住まい方」の発信を行っていく予定です。

来年春には高層住棟の建替えも完成を予定するなど、いよいよ本プロジェクトの拡がりが見える形になってまいりました。これからも多くの皆様のご支援を賜りながら、地域の皆様とともに進めてまいります。どうぞご期待ください。

独立行政法人 都市再生機構
東日本賃貸住宅本部
本部長 田島満信



本来であれば現地にて皆様とともに、集会所、広場の完成を記念しセレモニーを実施する予定でありましたが、新型コロナウイルス感染防止の為、お披露目のムービーをセレモニーに代えて制作いたしました。あわせてご覧ください。





改修コンセプト（団地の集会所 OPEN RING デザイナー・アキテクト NAAW）

北団地の屋外空間の良さを活かすために、建物と地形の関係性を高めることを考えました。サンクンガーデンをより広く階段状に改修し、軒下空間と関係づけることによって、既存建物・周辺環境を含め全体として「集まり」を感じる空間をつくりました。新築、改修、既存部分を共存させることで、文脈と馴染んだ様々な居場所や交流の場所を創出しました。また、軒下空間が通り側にも面することで、北団地の玄関口として人々を迎えられるように考えました。





団地のカフェ

「洋光台通り」に面した北団地集会所の一角に、「団地のカフェ」がオープンしました。団地や地域にお住まいの皆さんに気軽に立ち寄っていただける場所として、また、今後様々なワークショップや広場を活用した各種イベントの実施を通じ、洋光台北エリアの新たなコミュニティ拠点として親しまれることを期待しています。



団地のライブラリー

「団地のカフェ」内に、団地内の豊かな屋外空間の中で本に触れるゆっくりとした時間を過ごしていただく仕掛けとして、本とレジャーシートをバスケットに入れて本棚に並べた「団地のライブラリー」を設置しました。これは、団地全体を図書室化するプロジェクトです。団地の中ならどこでも持ち出し自由。洋光台中央団地の「まちまど」や建替え工事中の北団地高層棟にも展開していきます。

団地のライブラリー 監修 ブックディレクター幅氏コメント

バスケットに入った3冊の本を自由に選び、特製の専用ラグをひろげ、団地内の様々な場所で読んでください。各バスケットについた選書テーマを眺めながら、普段は手に取らないような1冊と偶然出くわして楽しんでもらいたいです。またそれは、即効よりも遅行性の性質を持つ本と過ごす時間を有意義に感じてもらう試みでもあります。



Photo: Kazuhiro Fujita

ブックディレクター / 有限会社 BACH(バッハ)代表

幅 允孝 Yoshitaka Haba

人と本の距離を縮めるため、公共図書館や病院、動物園、学校、ホテル、オフィスなど様々な場所でライブラリーの制作をしている。2020年7月に開館した「こども本の森 中之島」ではクリエイティブ・ディレクションを担当。近年は本をリソースにした企画・編集の仕事も多く手掛ける。

アイデアコンペ 2015.9 - 2016.6

『建築アイデアコンペティション - 集会所 テーマ「集まって住む未来」』と題し2015年9月に募集開始。約3か月の募集期間を経て148作品の応募がありました。その後、1次審査を通過した6作品による2次プレゼンテーションを一般公開により開催いたしました。



最優秀案の選定～実施案検討会の実施 2016.6-

審査の結果、NAAW(長野憲太郎氏・王翠君氏)による「OPEN RING」が最優秀賞に選定されました。

2次審査に進んだ作品には、コンテンツ内容を主な提案とした作品が多い中、本質的な「場所性」をとらえた作品として評価されました。その後、隈研吾氏、佐藤可士和氏のディレクションによる実施案の検討が進められ、既存の集会所を残しながら、一部新築(建替)をする計画としました。



最優秀賞選定者 NAAWより 完成によせて

コンペ提案時では、地形や屋外空間との関係性を表現するために、大きく全体を一新する計画でしたが、隈さんと佐藤さん、様々な関係者の方々の貴重なアイデアや御意見を取り込みながら、既存のものを残しつつ、アイデアを進化していくことができました。こういったプロセスを経験できたのは我々にとって大きな糧となりました。

結果として、新しく住み始めた方や以前から住んでいる方、近隣に住んでいる方、皆さんが、気軽に声をかけ合ったり、何かしらのイベントで交流したり、どんどんと新しいものを取り込んでいけるような「開いたコミュニティ」を象徴する空間に近づけたのではないかと思います。これから居住者の皆さんがどのように活用してくださって、この集会所全体が更なる変化していくのか、本当に楽しみです。また、団地全体で様々なプロジェクトが行われていく中で、団地全体の雰囲気が益々変わっていくのも今から待ち遠しいです。



長野 憲太郎

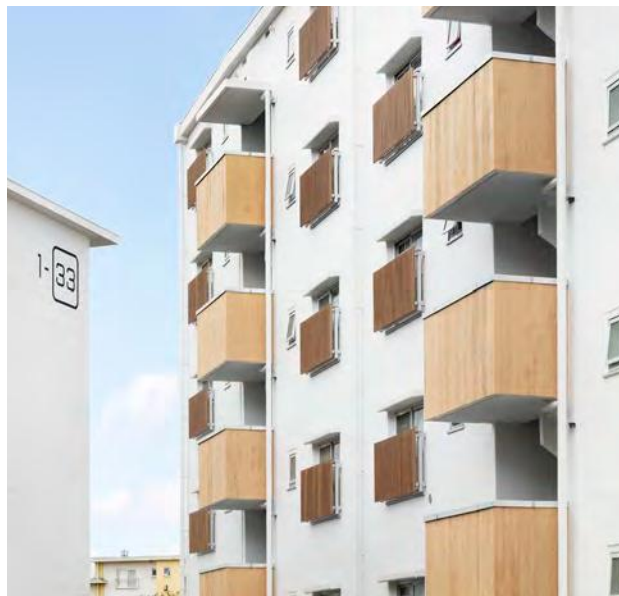
団地の集会所 OPEN RING デザイナー・アーキテクト / NAAW

長野 憲太郎 Kentaro Nagano

1981年東京生まれ。2009年米国ワシントン大学セントルイス M.Arch修了。2015年からNAAW共同主宰。2016～19年Hong Kong Design Institute 非常勤講師。2020年～同校専任講師。

王 翠君 Alice Wong

1985年香港生まれ。2010年香港中文大学 M.Arch修了。2015年からNAAW共同主宰。



団地の小枝手すり

改修コンセプト（デザイン監修 SAMURAI）

今回の広場と住棟ファサードの改修に当たってまず心がけたのは、明るく、風通しの良い、普遍的に気持ちの良い場所を住人の方々に提供することでした。なるべく開放的な空間となるよう、既設の古くなってしまった構造物を撤去し植栽の整理を施すことで生まれたオープンスペースに芝を貼り、木製の家具を設置しました。白く再塗装された住戸のファサードには、木調のルーバー状の手すりを設置。シンプルな外壁に広場の家具や緑と調和するアクセントを与えることで、ランドスケープと建物が一体化するようにデザインしています。軽やかな印象に生まれ変わる洋光台団地が、団地の更なる可能性を広げていけるような試みを継続していきたいと考えています。



団地の広場



団地のファニチャー



ディレクターアーキテクト 隈研吾氏より

洋光台のリニューアルは、団地という、日本にしかない特別にユニークで豊かな空間とコミュニティの資産を再発見するプロジェクトでした。コロナ後の、開放的なライフスタイルの一つのモデルが、洋光台に生まれつつあります。

ディレクターアーキテクト / 建築家

隈 研吾 Kengo Kuma



Photo (c) J.C. Carbonne

1954年生。東京大学大学院建築学専攻修了。1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。

1964年東京オリンピック時に見た丹下健三の代々木屋内競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。大学では、原広司、内田祥哉に師事し、大学院時代に、アフリカのサハラ砂漠を横断し、集落の調査を行い、集落の美と力にめざめる。コロンビア大学客員研究員を経て、1990年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。これまで20か国を超す国々で建築を設計し、(日本建築学会賞、フィンランドより国際木の建築賞、イタリアより国際石の建築賞、他)、国内外で様々な賞を受けている。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案している。また、コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。

プロジェクトディレクター 佐藤可士和氏より

今回の北エリア改修は、プロジェクトのメインコンセプトである「集まって住むパワー」の象徴として、中央エリアに続いて具現化されたものです。集会所を起点に、木と緑の爽やかな空間としてリデザインしました。団地ならではの「集住の価値」を再発見し、皆さんが心地良く一日を過ごせる場所となってほしいと考えています。

プロジェクトディレクター / クリエイティブディレクター

佐藤 可士和 Kashiwa Sato



SAMURAI代表。ブランド戦略のトータルプロデューサーとして、コンセプトの構築からコミュニケーション計画の設計、ビジュアル開発まで、強力なクリエイティビティによる一気通貫した仕事は、多方面より高い評価を得ている。グローバル社会に新しい視点を提示する、日本を代表するクリエイター。

主な仕事に、国立新美術館、東京都交響楽団のシンボルマークデザイン、ユニクロ、セブン-イレブン、今治タオルのブランドクリエイティブディレクション、ふじようちえん、カップヌードルミュージアムのトータルプロデュースなど。近年は、武田グローバル本社、日清食品関西工場、FLAT HACHINOHE、GLP ALFALINK相模原など大規模な建築プロジェクトにも従事。文化庁・文化交流使(2016年度)として、日本の優れた文化、産業、コンテンツ、商品などを広くグローバルに発信することにも注力している。著書はベストセラーの「佐藤可士和の超整理術」など。亀倉雄策賞、東京ADCグランプリ、朝日広告賞など受賞多数。慶應義塾大学特別招聘教授(2012-2020)、多摩美術大学客員教授。



1-11号棟 建替完成

洋光台北団地1-11号棟は新築棟に建替えを実施しています。2021年1月下旬より入居者募集を開始する予定です。
この住棟には、洋光台北団地にお住まいの方がご利用いただけるコミュニティラウンジが併設される予定です。



佐藤可士和展開催

2021年2月3日～5月10日 国立新美術館にて団地の未来プロジェクト/プロジェクトディレクター佐藤可士和氏の過去最大規模となる個展、「佐藤可士和展」が開催されます。団地の未来プロジェクトに関しても展示が予定されています。